

## 9. 高齢者・障がい者と協働・共生する商店街づくり

(帯広市・帯広電信通り商店街振興組合)

### ■ 地域とのつながりを大事に

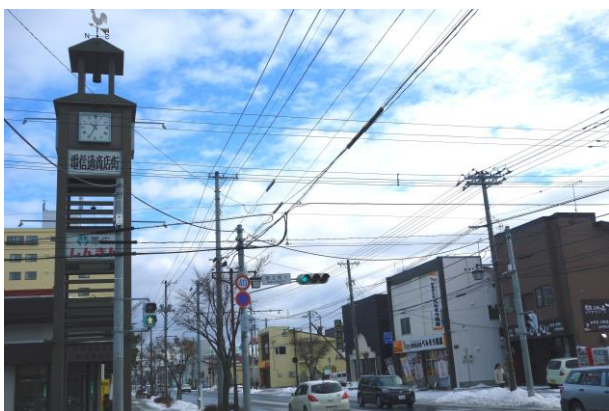
明治15年の「晩成社」開拓団入植発祥の地に隣接し、帯広の歴史とともに歩んできた商店街も、近隣に相次ぐ大型商業施設の進出や周辺地区の人口減少・高齢化も相まって、廃業による空き店舗が増加し、商店主達も危機感を感じていた。

平成22年に住民及び来街者を対象としたニーズ調査を実施したところ、高齢者が日々の生活サポートを商店街に求めていること、気軽に立ち寄れる飲食店などのニーズが高いこともあり、スイーツを核とした商店街のブランド化とともに、高齢化社会に対応した商店街づくりを目指す必要があると分析した。

また、近隣の市立障がい者支援センター開設を契機に、障がい者支援団体との結びつきを強化するとともに、平成23年4月に道内で初めて国の地域商業活性化法の認定を受け、空き店舗を活用した、地域の食の発信や高齢者・障がい者の就労を支援する施設を開設した。

併せて、自主財源確保のため、「株式会社でんしん」を設立し、駐車場の管理運営をはじめ障がい者向け住宅建設及び運営等の事業を実施し、収益を商店街活性化事業に拠出する仕組みを作り上げていった。

商店街のシンボルタワー



### ■ 着実な空き店舗対策

○「コミュニティショップミナミナ」リニューアル (H23.9)

地域のニーズに応じてコミュニティスペースを充実。日替わりランチ提供。ごぼう茶販売。

○クッキーハウスぶどうの木 (H23.12)

育児中の主婦をターゲットとした「子ども広場」等設置。商店街発のスイーツ新商品の開発及び販売や商店街情報を発信。

○総菜・ごはん屋 でんしん (H24.8)

高齢者の交流拠点。安心安全居酒屋。地域住民が気軽に利用できる100円総菜販売が好評。

○産学官連携チャレンジショップ (H27.3)

地元短期大学とも連携し、経営体験の場の提供や人材教育支援・次世代の商店街を担う後継者育成を目的として実施。



クッキーハウスぶどうの木のみなさん

### ■ 地域に愛される商店街を目指して

商店街の地域の担い手としての役割が増していることから、子育て・高齢者・若者支援などを通じて、安心できる暮らしを支え、生きがいのある環境の整備が重要と考え、商店街・NPO法人・大学・ボランティア団体とも連携し、古民家をサロンとした地域コミュニティ拠点を整備中。高橋専務は「今後とも、空き店舗解消に向けた取り組みを続けていきたい」と力強く語った。

照会先  
(運営主体等)

■帯広電信通り商店街振興組合  
帯広市東4条南6丁目6番地 (0155-23-5991)  
HP (<http://www.denshindoori.com/>)